

(5) 音声認識ソフトを活用した診察待ち時間の短縮とより効率的な医療を提供するために
—キーボード入力と音声入力の比較—

川崎医療福祉大学大学院 医療情報学専攻修士課程 ○佐藤 大輔
川崎医療福祉大学 医療情報学科 秋山 祐治
川崎医療福祉大学 医療情報学科 岡田美保子

【要 旨】

【目的】

電子カルテ導入により、診察待ち時間が短縮され、医師は患者に診察内容の説明をスムーズに行うことができると考えられている。しかし、キーボード入力に医師が不慣れである等の理由により、入力に時間を要し、必ずしも患者満足度の向上につながるには限らない。医療機関は患者満足度調査を行っており、診察待ち時間が長いと感じる患者が多いことも知られている。

そこで、患者の診察所要時間と待ち時間およびカルテ入力文字数に関する関係性を分析した。また、医療専用の音声認識ソフトの活用により、医師のキーボード入力の負担を軽減する方法について検討した。

【方法】

川崎医科大学附属病院医療資料部の協力の下、上述の資料を取得し、関係性の分析を行った。最もカルテ入力文字数が多い診療科の調査を行う。次に、異なる特徴のテキストを4種類作成した。医師、学生各1名によるキーボードと音声入力を7回入力し、

3回繰り返した。

【結果】

心療内科においては、診察待ち時間とカルテ入力文字数で相関がみられた。診療科ごとの特徴がみられ、そのことを考慮する必要がある。また、学生のキーボード平均入力時間は医師のキーボード入力よりも時間を要する結果となったが、音声では逆であった。

【考察及び結論】

音声入力は声を認識し、文字を入力するため、入力者の発声により誤認識をする確率が高く、ストレスが蓄積しやすい。また、患者の言葉を医師が専用の機械に復唱するので、プライバシー保護に留意する必要がある。

医師のキーボード入力の負担を軽減するために、音声入力を行う際には、キーボード入力との併用が必要であると考えられる。また、「医師事務作業補助者」を配置することも考えられる。

今回は、医師・学生各1名による結果であり、一般化は困難であるが、今後、複数の被験者のデータを収集し、分析を行っていききたい。